

遊行縁起

文書としては室町初期。内容は応永二十三（1416）年。

「日本仏教」二九号 一九六九年一月）に神奈川県立博物館蔵「遊行縁起」が大橋俊雄氏によって翻刻掲載されている。戸隠が記された最初の紀行文にあたるかと思われるが、六十四代祖他阿上人の項（通常は十四代太空といわれる上人）に次のようにある。

依首尾
多略之

かくて巡礼せらるゝ程に、応永廿三年信州善光寺へ参詣し給、礼堂にて日中勤らる。終かたに例の算くハゝるゝ時分、紫雲走りき。音楽奏し、花ふり奇瑞おひたゝし。聴聞群集の人々親ら是を拝して斜ならず。信敬帰依せり。同十六日戸隠へ参詣あり。其比権現三日御飯供を御食なし。然に或人に詫して遊行の念珠と名号とを所望あり。仍神人等起請文の言を載て、遊行へ申さる神慮たるうへはとて、念珠名号進せられたり。其時御飯供御食あり。不思議の事と申あへり。

註 「奇瑞」は奇瑞か。「同十六日」とあるが月はない。